

舞台は世界だ!

Go! Global

2015 KGM
グローバル人材
育成プログラム
レポート Vol.5



アメリカ短期研修 northwest HARVEST でのボランティア活動

**KANTO GAKUIN MUTSUURA
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL**

ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。



今年度のアメリカ短期研修は、7月23日～8月12日の21日間の日程で、ワシントン大学 Bothell 校をスタディーセンターとして実施されました。英語学習や様々なアクティビティーによる異文化交流を通して、真の国際感覚を身につけた人材として将来設計を構築していくための研修です。参加生徒は4年生30名。国内英語研修や異文化理解ワークショップなどの事前研修を経て、7月23日に大勢の保護者の皆様に見送られながら、緊張の中、羽田空港を出発しました。

研修のスタートとして、世界のトップクラスにあるカナダのプリティッシュコロンビア大学を訪問し、現地の学生からお話を聞く機会をいただきました。いきなりの英語のシャワーに戸惑いを感じながらも、生徒達は海外で学ぶことの重要性を実感し、同時にこれからの研修を成功させようと必死に説明に耳を傾けていました。

27日からはいよいよワシントン大学 Bothell 校での研修がスタートしました。午前中は約3時間の研修です。2つのレベルに分かれた授業でしたが、ゲームなどを交えたプログラムにより、生徒たちは毎日楽しくそして充実した研修を積み重ねることができました。午後のプログラムは毎日違った過ごし方が出来るようにプランニングされていて、バディー（サポート学生）たちと小さなグループに分かれてのキャンパス内散策、バイクプレイスマーケットなどへの Excursion、アメリカの文化には欠かせないメジャーリーグ観戦など、異文化を肌で感じ、かつ、各自の英語力の向上を試す場となりました。特に、WEST VALLEY の northwest HARVEST という団体を訪問して、恵

まれない方々へ食料を配布するフードバンクのお手伝いをさせていただいたことは、強く印象に残っているようでした。

多くの経験の集大成として、8月10日には、このアメリカ研修を振り返って1人3分間のプレゼンテーション、そしてお世話になったホストファミリーをお招きしての SAYONARA PARTY を行いました。ホストファミリーとは、一緒にキャンプをしたり、バーベキューをしたり、たくさんの思い出があります。生徒達は感謝の気持ちをこめて、全員で「ソーラン節」の踊りを披露し、会場は大いに盛り上がりました。シアトル留学中の卒業生、井上愛美さん（60回生）も駆けつけてくれ、この3週間で大きく成長した生徒たちにとって、研修の最後を飾る素晴らしいパーティとなりました。

帰国後の事後研修では、事前研修でもお世話になった先生に、自分の思いを的確に相手に伝えることが出来るようになった成長振りを見ていただき、高く評価をしていただきました。この研修中に、シアトルで活躍している世界的に有名なクリエイティブディレクターの益山知恵さんから「出来ない理由を探さないで、どうやったら出来るのか…と考える」という物事の前向きな考え方をレクチャーしていただいた生徒たち。今回の研修でお世話になった現地の皆様や、保護者の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、体験した様々な事柄を糧に、更にステップアップしてくれると確信しています。

引率教員 中田 努

My Best Experience

Kenta Nagaya

I would like to share my best experiences during my stay in America. I went to many places while I stayed there, for instance, Downtown Seattle, The Museum of Flight, Green Lake and so on. Everyone I met helped me make good memories.

My favorite place was Downtown Seattle. There, I went to the Gum Wall at first and saw the world's dirtiest sightseeing spot. Then I went to the comic book store and the first Starbucks shop. I bought NARUTO's card and an original Starbucks cup. After that, I went up the Space Needle. I was frightened because of its height.

I also joined a volunteer activity in Northwest Harvest. When I volunteered at Northwest Harvest, I learned that there are many people who can't buy their own food. I put a lot of rice into plastic bags. We bagged 6,000pounds. That was 4,615meals.



Spending time with my host family was also memorable. When I met my host family for the first time, I was very nervous. But I gradually felt relaxed and comfortable when I saw them. Their grandchildren visited us every day, and we enjoyed ourselves by chatting together all the time. So I could easily open up to my host family and their grandchildren. Their grandchildren and I swam in the pool and played Frisbee. I also watched movies with my host family every night. For example, we saw Mission Impossible, Hunger games, Terminator and Rocky I, II, III, IV and V. I especially liked Rocky which is a famous boxing movie. Why did I like this movie? Because even when he lost a match, he never gave up. He practiced hard and as a result he could win the match. I could get energy by watching Rocky. My host family and I often played UNO. I also treated them to a Japanese dinner which was Vinegar rice and Miso soup. My host family was very pleased, so I was very happy. I taught Japanese numbers to their grandchildren. They said "I mastered Japanese numbers" so I smiled. I had a lot of happy experiences. I would like to thank my host family and their grandchildren.

Before I came to America, I was very nervous. My host father, mother, grandchildren and teacher took care of me nicely so I could feel relaxed during my stay in the US. I learned many things through this homestay. I thought I could grow up. I had a really good experience there in America.

アメリカに留学して

第60回生 井上愛美 (国際基督教大学在学)

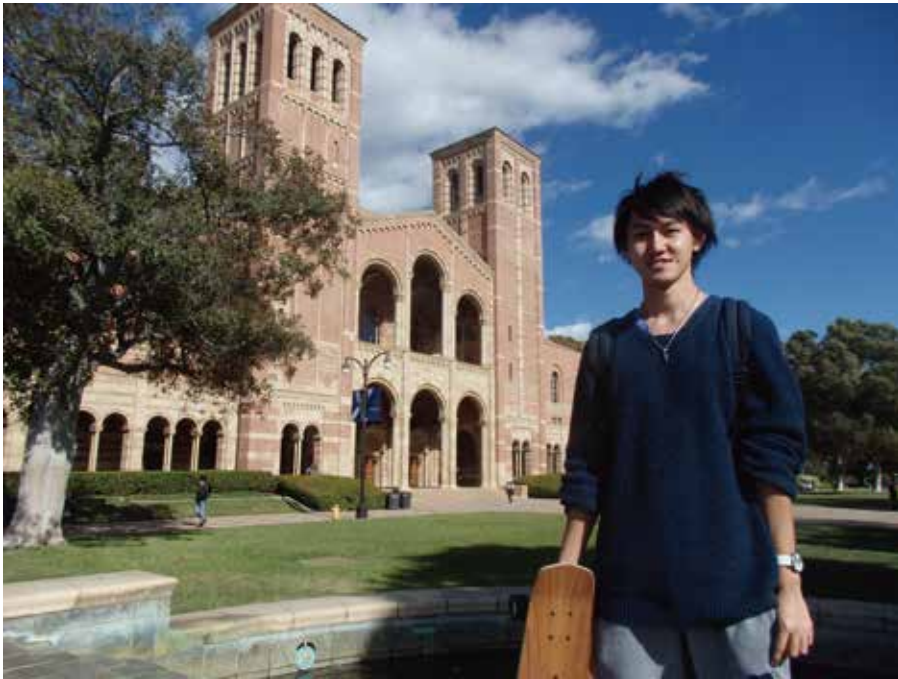
はじめまして。関東学院六浦高校第60回生の井上愛美です。私は現在、日本の大学四年次を休学してアメリカのシアトルに留学しています。今夏、シアトル研修に来られた在校生の皆さんにお会いする機会をいただきました。ホストファミリーと一生懸命コミュニケーションを取ろうとする人や、中にはホームシックで日本を恋しがっている人を見て、自分がシアトルに来た当初の気持ち思い出しました。

さて、皆さんは留学に対してどんなイメージをお持ちですか？言語習得のためという印象が強いですでしょうか。実際、アメリカに来ている留学生の目的やきっかけは様々です。語学やキャリアアップのため、または異文化の中で知見を広めたいとか、海外に住むという夢を叶えに来たなど。それぞれ違う目的を持ちながらアメリカに来て、当たり前ではない毎日を過ごしています。よく言われ

るように、留学は語学だけではなく、日本という国を客観視したり、文化の多様性を認識できる良い機会です。しかし、私が思う留学生活の醍醐味は、日本人というマイノリティの中で自分が何を考え行動するかということです。私は「言いたいことが伝わらない」「現地の人に受け入れてもらえない」ことが当たり前という日常の中で、そのような問題に対してどう向き合い乗り越えていくかを、身をもって体験しています。知り合いのいない、言葉の通じない土地で、人間関係をゼロから作ることは想像以上に大変です。しかし頼ることのできない状況に身を置き、自分で決断し行動できることは貴重な経験と感じ、留学を楽しんでいます。



Message from 留学生



UCLA キャンパスにて



第 61 回生

一柳 優心

(UCLA 在学)

私は高校卒業後の2013年4月に渡米し、現在 UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) の経済学部3年生として勉強している。アメリカに来た主な目的は、大学在学中に英語をネイティブレベルで話せるようになるためと、UCLA のような名門校に入学し世界中から来た優秀な人たちと切磋琢磨しながら勉強するため。

中高時代はラグビー部に所属しており、鬼のように厳しい監督のもとひたすらラグビーを楽しんでいる生徒だった。留学を決めたのは高校3年生の夏休み。本格的に留学のための勉強を始めたのは部活を引退した11月からだった。渡米は翌年の4月だったのだが、約半年間は必死にほぼ英語だけを勉強した。英語は高校2年生の冬から受験勉強のために一生懸命勉強していたこともあり、高校を卒業する3月には TOEIC で 930 点を取得し、読み、書き、リスニングにおいてはある程度の自信を持って渡米することができた。

しかし、現地の語学学校に通い始めて2~3日すると、その自信は一気に砕け散った。ディスカッションを含んだ授業において、ペラペラと自分の意見を話し出すサウジアラビア人や中国人に比べ、自分は意見を求められると何も言えなくなってしまい、質問を聞き返す英語すらまともに出てこないという状況で、クラスメートとの間に大きな差を感じ、途方に暮れた。さらに英語力以前に教養や知識においても差は大きく、4ヶ月後に現地の大学に正規入学する自分の姿なんて想像すらできなかった。コミュニティカレッジ(2年制の短期大学)では英語もまだ完璧ではない状態で、アメリカ人と同じ土俵で戦わなければならないが、目標とする学校に編入するために履修した全てのクラスで A 評価を貰うと決めていたので、2年間はかなりのプレッシャーと共に過ごした日々だった。しかしどれだけ不安でも立ち止まらずに、必死に自分よりも出来る人たちの真似をしながら勉強し続けた結果、ついに今年2015年の9月に UCLA の3年次に編入することに

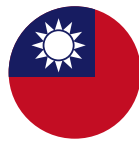
成功した。

9月から通い始めた UCLA の勉強も実際にとても難しく、睡眠を削り朝方まで勉強し、歩きながら教科書を読んでも授業についていけない程で、学校が始まり2週間が経とうとする頃までには、せっかく入学した経済学部を諦めて他の楽な学部に変えない限りは卒業することは不可能だろうと本気で思った。(経済学部は特に人気で、競争率の高い学部である。)

しかし、過去に困難を乗り越えた経験を思い出すと、失敗する可能性があっても、自分がしたいことに挑戦することを辞めたくなかった。現在は、優秀な友達を誘って一緒に勉強してみたり、図書館に泊まり込んで勉強してみたり、彼らについて行くために必死に試行錯誤している。

留学をしたいと伝えた時に親が言ってくれた「失敗してもいいからやってみなさい。」という言葉が、アメリカに来てから幾つものチャレンジをする中で、いつも私を迷わずに動かし続けてくれているように感じる。どうせ一度しかない人生なのだから、自分のやりたいことにチャレンジしない理由などないと思わせてくれたのは私の両親である。

UCLA ではもっと自分らしいことをしてみたいと思い、友達と留学生支援系の学生団体を作るなど、新しいことにもどんどん挑戦している。「日本の教育を変えられるような影響力のある人になりたい」という私の将来の夢の一つに向けた活動の第一歩だ。これからのあと約1年半の学生生活、またその先に待っている人生がとても楽しみである。



第 63 回生

長谷川 彩乃

(開南大学在学)

大家好！我是去年從關東六浦高等學校畢業的長谷川彩乃。畢業後我去台灣的大學，然後我現在在台灣每天都過得很新奇雀躍的日子。

こんにちは。私は昨年関東学院六浦高等学校を卒業した長谷川彩乃です。私は高校卒業後、台湾の大学に進学し、今は台湾で毎日刺激的な日々を送っています。

私は元々、国際交流について興味があり、需要が高まってきている中国語、世界言語である英語を学べる台湾への留学を決意しました。今は開南大学の応用英語学科で英語を学んでいます。私はオールイングリッシュとオールチャイニーズの授業(英語と中国語を使う授業)を取っていますが、台湾の英語はアメリカ英語で独特なまみりなどは無く、大変聞き取りやすいです。そのほか、体育や本格的なフランス料理を作る授業などもあり、面白くやりがいのある授業を毎日楽しんでいます。



私の通っている大学にはいろいろな国から来ている留学生がいて、国際交流を深めることができます。私は、台湾人は勿論、ヨーロッパ、アジア、アフリカから来た留学生と友達になりました。大学では生徒主催のハロウィンパーティーや肝試し大会、学科別のキャンプなどいろいろなイベントが行われ、充実しています。サークルも日本と同じようにたくさんあり、私は国際交流サークルとダンスサークルに入りました。

台湾は治安が良く、食べ物も美味しく、親日国のため、日本人がとても暮らしやすい国だと思います。興味があればみなさんも是非台湾留学を考えてみてください。

＋ 関東学院六浦に留学して＋



今年は僕にとって、とてもいい経験でした。オーストラリアの生活が少しつまらなくなっていたので、日本の留学を決めました。僕は何か違うことに挑戦したかったです。そして日本への留学を決めました。初めは日本語が難しかったので全然話せなかったのですが、今僕は日本語で会話ができます。でもまだ漢字や文法は難しいです。僕が帰るまでには一ヵ月半ありますが、今本当に僕は疲れていて、少しホームシックです。初めはみんな物珍しそうに僕を見ていましたが、今では本当に僕のクラスメートたちのように感じます。僕はいろんなことにチャレンジしました。なかにはうまくいかなかったこともありました。でも、オーストラリアに帰ったら絶対留学したことをすばらしい経験だと思うことを確信しています。

Jacob Dodd

カンボジア サービス・ラーニング研修



昨年度に引き続き、今年度もカンボジアでのサービス・ラーニング研修を実施します。12月21日～27日まで7日間の予定で、生徒9名と教員3名での研修です。

カンボジアの小学生・中学生がどうしたら喜んでくれるか、参加する本校生徒たちは一生懸命考えています。小学校での運動会プログラムや小中学校での交流プログラムをみんなで話し合って準備し、また、文房具や中古のボールなどの寄付も全校に呼びかけて集めました。

生徒達はカンボジアの文化やクメール語について、またポルポト政権時代のつらい歴史について、自分たちでそれぞれ調べて学習しています。カンボジアについてしっかりと学習した上で、子供たちと素晴らしい交流をしてきたいと思います。次回「Go! Global」での報告を楽しみにしてください。

第2回セブ島英語研修

昨年度スタートしたセブ島の英語研修。今年度は2月に加え夏休みにも実施することになりました。参加生徒は12名。加えて保護者1名、引率教員2名の合計15名で研修をしてきました。

今回のセブ島英語研修では、新たに義務自習と単語テストが加わり、前回の研修以上に勉強に燃える1週間となりました。研修先は English Fella というセブ島の都市部から車で40分程度の所にある落ち着いた環境の施設で、生徒達は1日に8時間の研修にも集中して取り組んでいました。8時間のうち5時間はマンツーマンレッスンです。親切でユーモアに富んだフィリピン人講師との英語授業は、とても楽しく、最初はほとんど会話が成立していなかった生徒たちも、研修後半になると講師と自然に英語でコミュニケーションを取れるようになりました。また残り3時間のグループレッスンでは他の国の留学生とともに授業を受けました。休み時間にはお互いの国について話すなど、文化交流の良きときとなりました。

週末にはセブンスピリッツというNPO法人を訪問し、現地の子どもたちと交流する機会を持ちました。セブンスピリッツは音楽を通してフィリピンの子どもたちの教育支援を行っている団体です。と



もに音楽活動を楽しみながら、子どもたちは互いに協力し、一つのことを達成する喜びを学びます。私たちも訪問の際には、子どもたちと一緒にダンスをしたり、演奏を聴いたりしましたが、子どもたちはみんな活き活きと輝き笑顔をしていました。

今回のセブ島英語研修も1週間と短い期間ではありましたが、充実した学びとボランティア体験の時となったことを心から感謝いたします。

引率教員 古江佑奈

「アラスカ研修」始まる！

この「Go! Global」では、今まで、英語学習・海外研修・異文化体験・留学・サービスラーニングなどについて特集してきましたが、今回いよいよ理系のための研修をご紹介します。

今年度から始まるアラスカ研修は、オーロラ観測をメインにした極寒の地ならではの現象や自然を観察する、まさに理系好きのための研修です。初年度は生徒14人、教員2人の参加で、4回のオーロラ観測やアラスカ大学地球物理学研究所でのレクチャーなどで研修します。また、事前学習として、オーロラ研究第一人者の上出洋介先生から2回の講義を受けます。

体験から学ぶことは、若い年代にとって大変重要なことです。あるひとつの体験が人生を大きく変えてくれます。今回参加する生徒たちも、オーロラの不思議、魅力を肌で感じ、将来、地球環境などの理系分野で活躍してくれることを願っています。

校長先生のメッセージ

「グローバル」。今、どこでも聞かれるようになった言葉ですが、どういう意味なのでしょう？「インターナショナル」とどんな風に違うのか、考えてみたことはありますか？

Go! Global (グローバルになれ!)。過去の4号までを含めて英語の研修や海外研修、留学の話題が中心のリーフレットです。毎回の記事からすると、タイトルの深い意味の理解は難しいかもしれませんが、そこで、今号では関東学院六浦が考えるグローバルについて少し詳しく説明します。

「インターナショナル化」(国際化)とは、明確な国と国との国境や約束事を介して、物の流通、人の往来、色々な交流を国家間で活発に行なうこと。一方、「グローバル化」(地球規模化)とは、人や物、お金や情報が国境を越えて高速で行きかうようになることを指します。また、環境、エネルギー、公衆衛生の

問題や課題も全地球的な規模で考えなければならなくなる時代の状況を言います。

皆さんが大人になる頃、10年後、20年後の世界は、活動の範囲も働く場所も、すべての国の人にとって自国の中だけでは留まらなくなります。それを支える交通や通信のシステムも、社会のしくみも、次第に似通って多くのものに差がなくなります。国内でも働く場所では違う国々の人々と一緒になることがもっと多くなります。そんな時代が必ず来ます。グローバル時代の到来です。

関東学院六浦中学校・高等学校は、10年後、20年後、皆さんが大人になる時代に必要、求められる力の芽を育てます。Go! Global のグローバルとは、皆さんが持つべき新しい力のことを意味しています。(2014年入職就任)

関東学院六浦中学校・
高等学校
校長 黒畑 勝男

